

アイヌの人たちの歴史・文化 アイヌ文化の成立

アイヌの人たちの歴史・文化等について一層理解を深めていただくために、本号から「アイヌの人たちの歴史・文化」にかかわる内容を連載します。

本号では、「アイヌ文化の成立」について掲載しますので、各学校等の教育活動に御活用ください。

アイヌ文化の形成

縄文文化期以降、北海道・東北地方では、本州西部の稲作を中心とした弥生文化の影響を受けず、土器を使い、採集、漁狩を生業とする「続縄文文化の時代」「擦文文化の時代」と呼ばれる時代が続きます。また、北海道では、擦文文化にほぼ並行して、中国大陸(沿海州)やサハリンの影響を受けた「オホーツク文化」が、オホーツク海沿岸に形成されていました。

アイヌ文化は、擦文文化を基盤として形成されてきたと言われていますが、擦文文化が交易の発展に伴い、鉄製品や漆器などの移入によって変容し、さらに、儀礼様式をもつオホーツク文化の影響を受けて形成されてきたと考えられています。

アイヌ文化に影響を与えた擦文文化とオホーツク文化
アイヌ文化と擦文文化の共通点は、一例を挙げると、サケやマスが遡上する河川の流域や河口に集落がつくられたことです。擦文文化を担った人たちもアイヌの人たちと同様に、季節になると大量に遡上してくるサケやマスを主たる食料としていたと考えられます。

オホーツク文化を担った人たちは、住居内にクマの頭骨を集積していました。これは、クマに対する何らかの信仰をもっていたものと思われます。アイヌの人たちもクマの霊送り儀式を行った後、頭骨を住居の外の祭壇に安置したことから、精神文化においては、オホーツク文化が大いに影響していると考えられます。

年	北海道	日本本土
前300	続縄文時代	縄文時代(採集・狩猟の時代)
		弥生時代 (稲作文化の展開)
300	続縄文時代	古墳時代 (政治権力の伸長)
600		オホーツク文化
800	オホーツク文化	
1000		オホーツク文化
1200	オホーツク文化	
1300		オホーツク文化
1600	近世アイヌ時代	

* 出典 ・「アイヌ民族の概説」(社)北海道ウタリ協会
 ・「アイヌ民族に関する指導資料」(財)アイヌ文化振興・研究推進機構
 ・「アイヌの人たちとともに～その文化と歴史～」(財)アイヌ文化振興・研究推進機構

アイヌ語 豆知識

「ユカラ」=口承文学の「叙事詩」の名称です。大別すると、神々の詞曲「カムイユカラ(神謡)」「オイナ(聖伝)」と人間の詞曲「ユカラ(英雄詞曲)」「マツユカラ(婦女詞曲)」から成り、地域によって名称の違いがあります。

「イオル」=かつてアイヌの人たちは、森林や水辺を中心に一定の広がりをもった自然を基盤に、暮らしに必要な素材を採取していました。その生活を支えた自然を基盤に、暮らしと精神文化が一体となった伝統的な生活空間を「イオル」と言います。現在「イオルの再生」を実現するため、具体的な取組が進められています。

* 出典 ・「イオルの再生に向けて」(社)北海道ウタリ協会 ・「アイヌ叙事詩神謡、聖伝の研究」久保寺逸彦著 岩波書店発行

トピック

「先住民族の権利に関する国連宣言」

宣言内容の概要

同宣言は、2007年9月国連総会で採択されました。その前文は、24段落からなり、「先住民族は、全ての民族同様に平等であり、人類の共通遺産を成す文明と文化の多様性と豊かさに貢献する存在である。しかし、植民地化と土地、領土及び資源の奪取など、歴史的な不正義によって苦しんできた。先住民族の権利を尊重しかつ伸展させる緊急の必要性がある。」とし、国家に対し、関連する国際法に基づく全ての義務に従い、協議と協力を効果的に実行することを奨励することなどが記述されています。

本文は、46条からの条文で構成されており、その主な内容として「政治的自決権」「文化的伝統と慣習の実践化と再活性化の権利」「伝統的に領有、占有もしくは使用や獲得している土地、領土、資源に対する権利」「同意なく没収または占領、占有、使用、損害を与えられた土地や領土、資源に対する返還または弁償を含む賠償を受ける権利」「集団としての権利」等が記述されています。

高橋はるみ知事の話 （平成19年9月14日 北海道新聞朝刊）

この宣言は、先住民族の人権に関する国際的な基準となるもので、アイヌの人たちが、その採択を待ち望んでいたものであり、国際社会において承認されたことを喜ばしく思う。今後、国において、宣言におけるアイヌ民族の位置付け、宣言に盛り込まれた先住民族の様々な権利について、検討を深めていただくことを期待している。

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する教材の紹介

アイヌ文化普及啓発DVD

『イランカラッテ こんにちは アイヌ文化』

「イランカラッテ」は、アイヌ語で「こんにちは」とか「はじめまして」の意味です。

このDVDは、アイヌ文化が過去から現在に至るまでどのように継承されてきたか、今どのような活動をして更に広げようとしているか、アイヌ民族の自然観や信仰などについて、30分程度で分かりやすくまとめたものです。アイヌ文化を理解するための効果的な教材です。各学校に配付されていますので、是非、有効に御活用ください。



< 作成 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構 >

「北海道立アイヌ総合センター」とは

アイヌ民族の歴史認識を深めることや文化の伝承、保存の促進を図ることなどを目的として設置されています。民族資料展示室、図書情報資料室、保存実習室があり、情報収集や活動の場として国内外から年間多くの人々が訪れ利用しています。

*住所 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7ビル7階 (011-221-0462)

*開館時間 9:00~17:00 (日曜日、祝日、年末年始は休館) 入場無料

「北海道立アイヌ民族文化研究センター」とは

アイヌ民族が、長い歴史の中ではぐくんできた貴重な文化の調査研究と、その成果の普及を目的として平成6年に設立されました。その業務内容は「アイヌ文化に関する資料の所在調査、情報の収集・整理」「アイヌ民族の歴史、言語、芸能、生活技術などに関する調査研究及び収集資料の分析研究」「研究成果や収集資料の公開及び情報提供」「研究成果に基づく講演会等の開催、地域の伝承活動、学習・研究活動の支援」などです。

*住所 札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7ビル5階 (011-272-8801)

*開館時間 9:00~17:00 (土・日・祝祭日、年末年始は休館) 入場無料